

適切なクッション活用で褥瘡改善

高い通気性・体圧分散性で安眠も

医療法人社団橘会の介護老人保健施設「西美濃さくら苑」は、ポジショニングクッションを活用した褥瘡ケアや姿勢保持に取組んでいる。

ポジショニングクッション活用前は、座布団やタオル・布団などで身体の間隙を埋めて体圧分散や安楽な姿勢作りをしていたが、接触面の皮膚が赤くなったり、タオルは動くとしてしまうなど問題も多かった。

看護師の中野和昭さんは「専用の用具ではないので、身体を面ではなく点で支える状態になっていた。入居者も痛くて動く座布団やタオルがズ



クッションの異なるサポティクを組み合わせて、適切な体圧分散

麻痺で右側がずっと緊張している入居者は、身体の状態が和らぎ、ベッド上での姿勢改善に繋がった。

クッションの活用方法共有し、適切なポジショニング実現

同施設では、褥瘡委員会を月1回開催し、回診

みと合わせ、入居者のベッド付近には▽褥瘡の洗浄方法▽体位変換のポイント▽ポジショニングクッションの設置方法―などを掲示(写真)。

全職員が適切な褥瘡ケアを行える環境を整備している。

褥瘡が改善しなかった入居者にサポティクッションの活用や創部洗浄の見直しを行ったところ、まもなくふさがる程度まで改善している。

高い通気性で夏場も快適に体圧分散

褥瘡ケアでは皮膚をムレさせない通気性も重要であるため、同施設では回診時に皮膚温度とポジショニングクッションの温度を毎回チェックしている。

座布団や市販のクッションは、中材の密度が高いため熱がこもりやすく布団内の温度が高くなり、汗をかいてムレた状態になっていたことが多かったという。

看護師の西川千鶴さんは「ムレて肌が湿潤した状態が続くと、汗疹がでやすく、褥瘡の治療が遅くなる恐れがあった」と話す。サポティクッションは、身体凹凸にフィットしながら高い通気性を維持する。

導入後はベッド内の通気性が格段に改善。クッションが触れている部分でも肌の状態が良く、布団内部の温度も快適で夏場でも汗による不快感が軽減された。

し、インフックリビング(東京都品川区)の福祉用具ブランド「すみれ」のポジショニングクッション「サポティクッション」を導入した。

サポティクッションは身体との接触面が大きく、高いフィット感が特長。しっかり身体を支えることで、体圧を分散させる

とともに緊張を和らげる。クッションの中材には高い安定性と柔らかい心地を両立する、サイ

ズ異なる2種のウレタンキューブを採用。大きい8mmキューブが体重を受け止め、小さい4mmキューブが隙間を埋めて安定性を高める。

また、外力バーは伸縮性がなく滑りにくい生地

で、クッション使用時に身体が滑るのを防ぎ、ポジショニング後の姿勢を保持する。

理学療法士の江口裕己さんは「実際に自分でサポティクッションを使っ

て寝てみたら、とてもリラックスできた。改めてクッションの重要性を実感した」と評価する。

同施設では、褥瘡リスク、拘縮、むくみがある人などを中心に活用。片

上への取組



左から中野さん、江口さん、木村崇事務課長、石原さん、西川さん

分散させる

(Ⅱ) 107人が算定した。

